

令和7年2月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和7年2月号」をお送りしますので、御高覧くださいますようお願いいたします。

サッカーJ3参入7季目となるヴァンラーレ八戸の新体制発表会が、1月11日(土)に行われました。八戸市の「マチニワ」に集まったサポーター約300人の前で発表された新シーズンのスローガンは、「over the limits ～限界を超えろ～ 全緑2025」。J2昇格をつかみ取る新たな1年として、これまでの限界を超え飛躍の年にするという決意が込められています。

昨季は終盤まで昇格プレーオフ圏を争い、11位で終えたヴァンラーレ八戸。1月下旬からキャンプが始まっており、2月23日(日)には敵地でFC岐阜との開幕戦に臨みます。ホーム開幕戦は3月9日(日)、SC相模原戦です。

J2昇格に向け、「全緑」でチームを応援しましょう。

▼ヴァンラーレ八戸オフィシャルサイト

<https://vanraure.net/>

◎皆様へのお願い

職業、役職、連絡先などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸 2月号 レポート

令和7年1月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	八戸水産アカデミー「高く売る戦略」「海業」の推進 ヒント探る
(2)	八戸の食や自然PR 羽田空港でフェア
(3)	東京・8 baseで八戸地域の食や酒PR メディア、旅行関係者に
(4)	地元企業 高校生目線で 事業や取組を取材・発表
(5)	「食品ロスってなに？」市がワークブック作成
(6)	国、県、八戸市 ペット同行避難 対応を図上訓練

【産業】

記事	概要
(7)	青森みちのく銀行誕生 質の高い金融サービス目指す
(8)	八戸 旧きんざん、宝成食品が継承 ラーメン店「うみの宝」
(9)	八食センターベイラボ 八戸いちごのスイーツ期間限定発売
(10)	青森県内 外国人労働者6,190人 過去最高
(11)	大高さん エプソンアトミックスで開発 東北地方発明表彰で文化大臣賞

【地域】

記事	概要
(12)	八戸コミュニティボード 30年の絆、共助 再確認へ
(13)	八戸で空き家活用トークイベント 先進地、香川・三豊をヒントに
(14)	八戸・冬の朝市 にぎわい館鼻さながら
(15)	本とまちづくり 可能性探る はっちでフォーラム 有識者ら意見交換
(16)	商店街関係者ら事例共有 まちづくりのヒントに

【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	松井慶太さん（八戸市出身）がタクト オーケストラ・アンサンブル金沢 八戸公演
(18)	呉勝浩さん（八戸市出身）の小説「爆弾」映画化、年内公開
(19)	伊調さん、小原さん レスリング日本女子コーチ就任
(20)	全中IH 八戸二中 8年ぶり準V

【行政】

記事	
(1)	<p>八戸水産アカデミー 「高く売る戦略」「海業」の推進 ヒント探る</p> <p>水産業の再生を目指す八戸市の事業「八戸市水産アカデミー」が、1月15日に開かれた。洋野町でウコの加工、販売、再生養殖事業を手がける「北三陸ファクトリー」の下芋坪之典代表取締役CEOが「つくり育てる漁業」について講演し、水産物を高く売る戦略やブランディングの重要性を語った。また、27日には、海・漁村ならではの地域資源の価値や魅力を活用した「海業」に関する講演会が行われ、水産庁の担当者が昨年4月に運用開始した制度や海業の関連予算などについて解説したほか、海業の先進地・静岡県焼津市の担当者が事例紹介し、参加者は、漁港活性化のヒントを探った。</p>
(2)	<p>八戸の食や自然PR 羽田空港でフェア</p> <p>八戸市とVISITはちのへは1月18、19日の両日、八戸の食やみちのく潮風トレイルなどの自然をアピールする「はちのへフェア」を羽田空港で開いた。PRブースでは、種差海岸やみちのく潮風トレイルに関するアンケートを取り、回答者に特産品が当たる抽選会を実施。イカやサバの加工品、銘菓などを販売するコーナーも設けられ、空港の利用客らが思い思いの品を手にとっていった。市のマスコットキャラクター「いかずきんズ」が登場したほか、南部民謡と手踊りも披露され、会場は大いに盛り上がった。</p>
(3)	<p>東京・8 baseで八戸地域の食や酒PR メディア、旅行関係者に</p> <p>八戸市など8市町村で構成する八戸圏域連携中枢都市圏は1月20日、東京・内幸町の八戸都市圏交流プラザ「8 base」で、八戸地域のPRイベントを開催した。取材や旅行商品の造成に役立ててもらうため、首都圏のメディア関係者や旅行エージェントなどが対象。8 baseの運営を担う金剛グループ（同市）が手がけた特別コース料理やそれに合う八戸酒造の日本酒を提供されたほか、食文化などに関するトークセッションや意見交換なども行われ、参加者は食や酒など多彩な観光コンテンツの魅力に触れた。</p>
(4)	<p>地元企業 高校生目線で 事業や取組を取材・発表</p> <p>高校生の目線で地元企業の魅力を探り、発信することで地元定着や地域振興につなげる八戸市の事業「チャームエイト」の成果発表会が、1月26日に開かれた。本年度は市内8校から43人が参加。13チームに分かれ、取材のポイントなどを学び、昨年8月に製造や建設業など2社ずつ計26社を訪問した。発表会では、高校生が取材した市内企業の事業内容や取組を紹介し、北東北有数の産業都市を支える企業や地元の良さについて理解を深めた。発表会の動画は2月中旬から配信され、レポートはe-book（電子書籍）として公開する予定。</p>
(5)	<p>「食品ロスってなに？」市がワークブック作成</p> <p>八戸市は本年度、食品ロスについて考えてもらおうと、小学生向けのワークブックを作成した。ワークブックはフルカラーの6ページで、高学年と低学年向けの2種類。また食べられるのに食べ物が捨てられてしまう理由や影響、どうしたら防げるかなどをイラストや図解付きで解説している。市立小学校の授業で活用が始まっており、1月29日には、桔梗野小学校で開かれたセブンイレブンの出前授業に市くらし交通安全課の職員が出向き、ワークブックを紹介した。</p>

(6)	国、県、八戸市 ペット同行避難 対応を図上訓練
	環境省と青森県、八戸市は1月30日、災害発生時にペットを連れて避難する「同行避難」に対応するため、市総合保健センターで図上訓練を開催した。ペットの避難に特化した訓練は県内初。県動物愛護センターや三八支部獣医師会、市災害対策課、市衛生課などの職員ら約50人が参加し、県南地方で最大震度6強の地震が発生したとの想定でグループワークを実施。同行避難の受け入れなどの各種課題に対し、連携体制を確認しながら避難所運営などの問題点を洗い出した。

【産業】

記事	概要
(7)	青森みちのく銀行誕生 質の高い金融サービス目指す
	青森県に拠点を置く青森銀行とみちのく銀行の合併による「青森みちのく銀行」が1月1日、誕生した。東北地方の地銀では七十七銀行（仙台市）、東邦銀行（福島市）に次ぐ3番目の規模となる。経費削減に向け店舗数の最適化を進め、現在の148か所から100か所程度に見直す見込み。再編で生まれた人的余力を新サービス開発や新分野の事業などに投入し、両行が持っていた情報やネットワークを活用した質の高い金融サービスの提供を目指す。
(8)	八戸 旧きんざん、宝成食品が継承 ラーメン店「うみの宝」
	八戸市の水産加工業「宝成食品」は1月23日、同市白銀町にラーメン店「浜のだし薫る麺処 うみの宝」オープンした。市内の乾物類卸売業者が運営してきたラーメン店「きんざん」が1月上旬に閉店。同社は自己破産を申請し、海産物の仕入れや飲食店のノウハウがある宝成食品が事業継承した。だしにこだわるコンセプトを引き継ぐほか、従業員やパートの計10人も継続雇用する。看板メニューは、青森県産シジミだしベースでホタテやイカ、三陸産メカブなどが具材の「浜の磯らあめん」。月曜定休で、当面の間午前11時～午後3時の営業。
(9)	八食センターベイラボ 八戸いちごのスイーツ期間限定発売
	菓子製造卸「しんぼり」が運営する八食センター内の「BEILAB（ベイラボ）」は1月24日、「八戸いちご」を使用した季節限定メニューの提供を始めた。南部せんべいや青森県産リンゴなど、地元食材を生かしたカフェメニューを扱う同店。イチゴをふんだんに使ったパフェ「生いちごソフト」や大容量のメガボトルサイズを新設したドリンク「いちごミルク」などバラエティーに富んだ8種を商品化した。地元住民や観光客に向け、地場製品のPRにつなげる。季節限定商品は6月上旬までの販売を見込む。
(10)	青森県内 外国人労働者6,190人 過去最高
	青森労働局が1月30日に発表した2024年10月末現在の外国人雇用状況によると、青森県内の外国人労働者は前年同期比10.9%増の6,190人、雇用事業所数が10.8%増の1,027か所となり、統計を始めた11年以降で共に最高を更新した。公共職業安定所別では、八戸が295人増の1,934人と最多だった。在留資格別では「技能実習」が全体の5割を超えた。国籍別は、ベトナムが最も多く全体の4割を超え、インドネシア、中国（香港やマカオを含む）と続く。産業別では、製造業が全体の4割近くで、うち食料品製造業が7割を占めた。人口減少などで人手不足に悩む事業者が増える中、製造業を中心に受け入れが広がった。

(11)	大高さん エプソンアトミックスで開発 東北地方発明表彰で文化大臣賞
	<p>各地方で優秀な発明、考案などに尽力した人の功績をたたえる、令和6年度東北地方発明表彰（公益社団法人発明協会主催）で、エプソンアトミックス（八戸市）の大高啓義さんが、最高賞に当たる文部科学大臣賞を受賞した。青森県内では9年ぶりの快挙。大高さんは、スマートフォンや電気自動車など高機能電子機器に使われる金属素材「アモルファス軟磁性合金粉末」の量産技術の開発に長年携わり、世界初の量産化成功に大きく貢献。また、量産化により社会に貢献しているとして、同社は「実施功績賞」も受賞した。</p>

【地域】

記事	概要
(12)	<p>八戸コミュニティボード 30年の絆、共助 再確認へ</p> <p>1995年1月17日の阪神大震災発生後、兵庫県芦屋市でボランティア活動を展開した八戸市の市民団体「八戸コミュニティボード」のメンバーが1月17日、芦屋市内で開かれた追悼式典に初めて参加した。震災当時、同団体は八戸市民に支援活動呼びかけ、ボランティア会を結成。支援物資を届けたり、せんべい汁の炊き出しを行ったりした。活動が縁となり、芦屋関係者との交流は今も続いている。メンバーは30年前の思い出を振り返りながら、防災のため、次代に記憶をつないでいく決意を新たにした。</p>
(13)	<p>八戸で空き家活用トークイベント 先進地、香川・三豊をヒントに</p> <p>地方創生の成功例の一つとされる香川県三豊市の事例をヒントに、空き家の活用を考えるトークイベントが1月18日、市内で開かれた。空き家の活用で街ににぎわいを生む秘訣を探ろうと、八戸市のまちおこし団体「南部藩都市開発ユニットDASUKEYO（だすけよ）」が主催し、約80人が参加。三豊市からゲスト3人が登壇し、地域の価値を上げるための空き家活用例などを紹介した。また、後半には三八地域で空き家活用に取り組む若者らと交え、八戸市で生かせる具体策などを考えた。</p>
(14)	<p>八戸・冬の朝市 にぎわい館鼻さながら</p> <p>八戸総合卸センターで1月19日、「冬の朝市」が開幕した。館鼻岸壁朝市を運営する湊日曜朝市会が、新型コロナウイルス禍で売り上げが落ち込む出店者の収入確保を目的に2021年から開始。冬場の観光も盛り上げようと継続し5年目になった。今年は28店舗が参加。魚介類や青果のほか、総菜やスイーツなど多種多様な商品が並び、来場者は冬場に休業している館鼻岸壁朝市の雰囲気満喫した。冬の朝市は2月23日までの毎週日曜、午前5時から9時までの開催。</p>
(15)	<p>本とまちづくり 可能性探る はっちでフォーラム 有識者ら意見交換</p> <p>生活文化創造都市フォーラム「八戸地域会議」が1月23日、市内で開かれた。「本のまち八戸」の推進をテーマにパネルディスカッションが行われ、文学によるまちづくり「文学創造都市おかやま」を推進する岡山市の吉備路文学館の明石英嗣館長、書店と連携を深める鳥取県立図書館資料課の岩崎武史課長、全国でも珍しい公営書店でもある八戸ブックセンターの音喜多信嗣所長が、それぞれの取組を紹介。行政関係者や市民や約100人が参加し、本によるまちづくりの可能性を探った。</p>

(16)	商店街関係者ら事例共有 まちづくりのヒントに
	経済産業省東北経済産業局が主催する「地域交流会in東北」が1月24日、八戸市の「はっち」などで開かれた。中心街の現地視察をした後、東京都や同市などで創業支援や街のリノベーションプロジェクトなどを手掛ける野田賀一さんが講演し、取組を紹介。中心街活性化に活用できる事業の紹介や相談会、参加者の意見交換会も行われ、まちづくりに携わる東北各地の商店街、行政などの関係者が事例を共有し、それぞれのまちづくりのヒントにした。

【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	松井慶太さん（八戸市出身）がタクト オーケストラ・アンサンブル金沢 八戸公演
	金沢市を拠点とするオーケストラ・アンサンブル金沢は1月15日、「ニューイヤーコンサート2025」を開催した。八戸市公会堂開館50周年を記念して、市などが主催。同楽団は、国内外で活動する日本初のプロの常設室内管弦楽団で、八戸での公演は初めて。八戸市出身の指揮者、松井慶太さんがタクトを振り、モーツァルトの歌劇「フィガロの結婚」序曲や小林秀雄の「落葉松」など14曲を演奏した。また、地元の八戸ジュニア・オーケストラや青森県立八戸東高等学校音楽部とも共演。情感あふれる演奏と美しい歌声が約670人の聴衆を引き込んだ。
(18)	呉勝浩さん（八戸市出身）の小説「爆弾」映画化、年内公開
	八戸市出身の作家呉勝浩さん（大阪市在住）のベストセラー小説「爆弾」が、映画化されることになった。「爆弾」は都内で次々起きる爆破事件を巡るサスペンスミステリーで、自身3度目の直木賞候補作となったほか、「このミステリーがすごい！」（宝島社）、「ミステリが読みたい！」（早川書房）の国内作品部門でそれぞれ1位に輝くなど、呉さんの名をさらに広めた出世作。主演は山田裕貴さんで、伊藤沙莉さん、染谷将太さん、渡部篤郎さんら実力派俳優が脇を固める。現在撮影が進行中で、公開は年内を予定している。
(19)	伊調さん、小原さん レスリング日本女子コーチ就任
	日本レスリング協会は、2028年ロサンゼルス五輪に向けた新強化体制を決め、女子コーチに五輪4連覇の伊調馨さん（ALSOK）と12年ロンドン五輪金メダルの小原日登美さんが就任した。いずれも八戸市出身。伊調さんは、21年12月から代表で精神面などをサポートするコーチを務め、練習拠点の日体大ではパリ五輪53キロ級女王の藤波朱理（日体大）らを教えている。小原さんも有力選手が所属する自衛隊でコーチをしており、初めて指導者としてナショナルチームに携わる。1月30日には強化指定選手の合宿に参加し、代表の指導者としてのキャリアをスタートさせた。
(20)	全中IH 八戸二中 8年ぶり準V
	第45回全国中学校アイスホッケー大会の決勝が1月27日、北海道帯広市で行われ、八戸二中は鳥取（北海道）に1 - 4で敗れた。青森県勢初の優勝は逃したものの、8年ぶり3度目の準優勝を果たした。道勢を含む強豪校を破って決勝まで進んできた八戸二。決勝では第1ピリオドの3分、5分と立て続けに失点し、第2ピリオドで1点を返したが、反撃は及ばなかった。スタンドには保護者ら多くの関係者が掛け付け、青森県勢初の優勝を信じて最後まで熱い声援を送った。



企業版ふるさと納税の3つの魅力



『企業版ふるさと納税』のご案内

『企業版ふるさと納税』で八戸を応援！
八戸市では「まち・ひと・しごと」に関する事業を推進しており、応援していただけるみなさまの気持ちを、八戸市のまちづくり活かしに活かしていきたいと考えています。ぜひこの機会に「企業版ふるさと納税」へのご協力をお願いいたします。

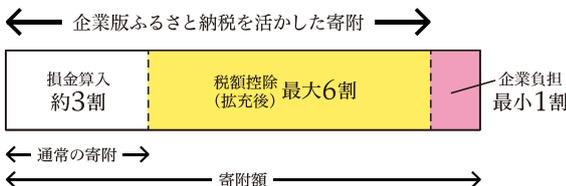


1 税制上の優遇が受けられる

損金算入による軽減効果(寄附額の約3割)と合わせて、税額控除(寄附額の最大6割)により、最大で寄附額の約9割が軽減されます。

2 社会貢献

SDGsやESGへ寄与できます。



3 自社PR

ご寄附をいただいた企業様を八戸市HPとSNSでご紹介いたしますので、企業様のPRに繋がります。



申込み方法

電話

メール

二次元バーコード

申込み・お問合せ先

政策推進課

企業版ふるさと納税担当

TEL:0178-43-9233

Email:seisaku@city.hachinohe.aomori.jp



[寄附受付事業]

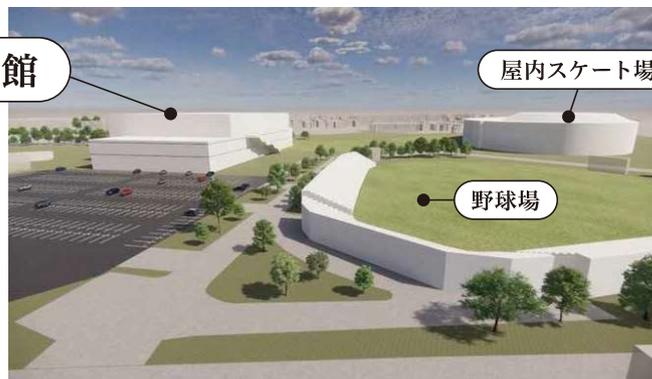
●新体育館の建て替え

スポーツやイベントなど、市民の多様な活動の場として、年間約37万人に利用されています。竣工から半世紀以上経過していることや、時代の移り変わりとともに変化する多様なニーズに応えるため、計画的に準備を進めています。

新体育館

屋内スケート場

野球場



●八戸市の魅力発信

八戸市のマスコットキャラクター「いかずきんズ」や公式SNSなどを活用して、当市の魅力を広く発信しています。

魅力を発信することで

- ◎市民の地元に対する愛着や誇りを醸成したい。
- ◎国内外の人々の当市への関心を高めたい。
- ◎交流人口や定住人口の創出・拡大につなげたい。



●八戸産ぶどうを活用したワイン産業振興

農業振興のみならず、商工業や観光業にも繋がる「ワイン産業」の振興を目指しています。



●創業・事業継承の支援拠点運営

創業及び事業継承の支援拠点を設置し、専門家による相談対応やセミナー開催等により、創業希望者等を支援しています。

●八戸市ブックスタート事業

八戸市在住の赤ちゃんとその保護者を対象に、おすすめブックリストや絵本をプレゼントしています。

ふるさと寄附金のご案内

『ふるさと寄附金』で八戸を元気に!

八戸市では、「八戸を応援したい!」「八戸が大好き!」という方々からいただくご寄附を『ふるさと寄附金』と名付け、八戸の魅力を高めるためのさまざまな事業に活用させていただいております。ぜひ、『ふるさと寄附金』という形で八戸市を応援してください!



ふるさと寄附金の3つの魅力

① 寄附金の使い道を指定できる

震災復興、子育て支援、まちづくりなど複数の分野から、寄附金の使い道を選ぶことができます。

② 税金が控除(還付)される

控除上限額内で寄附を行うと、合計寄附額から2,000円を超える部分について、所得税の還付や住民税の控除を受けることができます。(控除上限額は収入や家族構成によって異なります。詳しくはお住まいの市区町村の個人住民税担当部署にお問い合わせください。)

③ お礼の品がもらえる

八戸市では、10,000円以上の寄附をされた八戸市外にお住まいの個人の方に、地域の名産品を「お礼の品」としてお届けしています。

郵送・FAX・メール

- 「ふるさと寄附金申込書」に必要事項をご記入の上、ご提出ください。
- 申込書は市ホームページからもダウンロードできます。
- 申込書の郵送をご希望の方はご連絡ください。

市ホームページ



インターネット

- 下記4つのふるさと納税ポータルサイトから商品をお選びいただけます。
- 各ポータルサイトの決済方法に従って、寄附金のお支払いをお願いします。
- クレジットカード決済をご希望の場合はこちらからお申込みください。

ふるさとチョイス

楽天ふるさと納税



ふるなび

JRE MALL



送付先

広報統計課 ふるさと寄附金担当

〒031-8686

青森県八戸市内丸1-1-1

TEL:0178-43-2319

FAX:0178-47-1485

Email:furusatotax

@city.hachinohe.aomori.jp

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

TEL:03-3261-8973 FAX:03-3239-6723

Email:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

[所長] 番沢 啓司 [主査] 齋藤 千聖 [事務員] 浜井 章代

八戸市東京事務所では、企業誘致や八戸市関連情報の発信等を行っております。関連情報がございましたら、ご提供くださるようお願いいたします。また、事務所の近くにお越しの際は、どうぞお気軽にお立ち寄りください。